

感動の場

『キャラバン』
1984年 小川原 脩 画



大きな振り分け荷物を背に寄せ坂道をゆっくり進むロバ。移動手段の重要な担い手として、今も人と共に生きる馬の仲間です。ロバの追い手が見上げる先には、強い日差しを受けて白く輝くチベット仏教の寺院ゴンパと、チョルテンと呼ばれる仏塔が並んでいます。木陰もないつづら折りの道をキャラバンはまだまだ登らなくてはならないようです。

この寺院があるのはインド北部のラダックです。小川原脩は72歳のとき、標高4千メートル近い砂と岩ばかりの荒涼としたヒマラヤの高地を旅しました。ジャム・カシミール州からバスで移動しましたが、険しい山道を2時間揺られてラダックの中心都市レーにたどり着いたそうです。「年がら年中カンカン照りで乾燥した土地」にはるばるやってきた小川原はロバを率いたキャラバンに出会いました。「少年時代このようなキャラバンはどこでも見かけることができた。北海道で言えば大正時代だ」「このような流通手段を見て嬉しくなった」と語り、遠い異国の風景に幼少期の記憶を重ねるのです。

文：金澤 逸子（小川原脩記念美術館 学芸スタッフ）

アキアカネ－渡りをするトンボ

夕焼け小焼けの赤とんぼ♪…童謡に歌われる赤トンボですが、その代表種であるアキアカネの群れが、夏の暑い時期に羊蹄山やニセコ連峰の山頂周辺を飛び交うのを見たことはありませんか。

アキアカネは渡りの珍しい習性を持つトンボです。7～8月に平地で羽化した直後に高山に移動し、9月ごろまで過ごしたのち再び平地に降りてきます。北方系のトンボであることも相まって、この習性はわれわれ人間になぞらえ「避暑」とも表現されますが、実は暑さをしのぐ以外にも大事な意味があります。

トンボ類の多くは、羽化した後2～3週間で性成熟して繁殖できるようになりますが、長い冬を卵で越すライフサイクルを持つアキアカネにとって、産卵時期が早すぎると卵が春を迎えずに死んでしまうため望ましくありません。冷涼な高山で過ごすのは、成熟を抑える（生殖休眠）ためでもあるのです。



▲アキアカネ（オス）



▲胸部中央の線の先が尖るのがアキアカネの特徴

文：小田桐 亮（倶知安風土館 学芸員）

ふるさと探訪

519回

展覧会のお知らせ

特別展「神田日勝記念美術館×小川原脩記念美術館
所蔵作品交換展 二人の歩んだ道」神田日勝（両室）
会期：開催中～いよいよ7月12日（日）まで！お見逃しなく。

■第1展示室
小川原脩「アジアの大地」
会期：7月18日（土）～9月23日（水・祝）

■第2展示室
しりべしミュージアムロード共同展「しりべしザワザワ」
小川原脩記念美術館のテーマは「動物たちのいるところ」小川原脩、木田金次郎、西村計雄の作品を展示します。
会期：7月18日（土）～9月23日（水・祝）

アート・イベントのお知らせ

■土曜サロン
ギャラリートーク「しりべしザワザワ～動物たちのいるところ～」
展覧会の見どころを学芸員が解説します。
日時：7月18日（土）14時～14時30分
会場：第1・第2展示室（無料・予約不要）講師：沼田絵美（学芸員）

■ミュージアム・コンサート
しりべしミュージアムロード・コンサート2026「音色いろいろ」
札幌交響楽団若手メンバーがミュージアムロードを巡ります。
日時：7月26日（日）15時～15時40分
会場：ロビー（無料・予約不要・先着70席）
出演：オブリーグハーモニー
川口晃さん（フルート）・樫本朱音さん（ヴィオラ）
原田侑来さん（クラリネット）・浅原由香さん（オーボエ）

倶知安風土館のお知らせ

■倶知安いきもの調査隊
「第5回 引き抜け！オオハンゴンソウ」
森にはびこる特定外来種・オオハンゴンソウを引き抜きます。
日時：7月11日（土）9時～12時（少雨決行）
場所：百年の森公園 予約不要・参加費無料
講師：小田桐亮（風土館学芸員）、廣川大恒（百年の森管理人）

■寺子屋ミュージアム 予約申込：倶知安風土館 ☎ 22 - 6631
「ライトトラップで夜の虫たちに会おう」
日時：7月25日（土）19時～21時 ※要予約（19日まで）
場所：百年の森公園 定員：20名 参加費：250円（保険料）
講師：小田桐亮（風土館学芸員）、岡良則さん（北海道昆虫同好会会員）
「めざせ！昆虫標本マスター①～入門編～」
昆虫標本の基本的な作り方を学んでみましょう。（昆虫の持込可）
日時：7月26日（日）13時30分～16時 ※要予約（21日まで）
場所：倶知安風土館 定員：10名 参加費無料
講師：小田桐亮（風土館学芸員）
「めざせ！昆虫標本マスター②～応用編～」
自分で捕まえた昆虫を標本にします。（昆虫の持込可）
日時：8月1日（土）9時30分～16時30分 ※要予約（26日まで）
場所：百年の森公園 定員：10名 参加費：250円（保険料）
講師：小田桐亮（風土館学芸員）、岡良則さん（北海道昆虫同好会会員）



▲こちらからも予約できます

ミュージアム通信

小川原脩記念美術館 ☎ 21-4141
観覧料：一般 500円 [400円]
高校生 300円 [200円]
小中学生 100円 [50円]

倶知安風土館 ☎ 22-6631
観覧料：一般 200円 [100円]
高校生以下、美術館観覧者無料
※年間パスポート 500円

※[]内は10名以上の団体料金
開館時間は9時～17時（最終入館16時30分）

7月の休館日 毎週火曜日、
美術館のみ13～17日（展示替え）
18日は展覧会初日のため美術館観覧無料
*特別展会期パスポート（美術館のみ）1,000円
*特別展会期中と7月25日～8月31日は
高校生以下無料

お見逃しなく！

4月11日から小川原脩記念美術館にて開催しております特別展「神田日勝記念美術館×小川原脩記念美術館所蔵作品交換展 二人の歩んだ道」も7月12日までと残り日数も少なくなってきました。

身近な場所で神田日勝の作品を見ることができる最後のチャンスですので、ぜひお越しください。

交換展終了後の7月18日からは小川原脩展「アジアの大地」と、音をテーマにした展覧会のしりべしミュージアムロード共同展「しりべしザワザワ」が同時に開催され、展示室の雰囲気さがらっと変わりますので、こちらも楽しみにお待ちください。

また、風土館のイベントも盛んに行われる季節となりました。7月は、ふるさと探訪（イワオヌプリのお花畑を歩く）、いきもの調査隊（第5回引き抜け！オオハンゴンソウ）、寺子屋ミュージアム（ライトトラップで夜の虫たちに会おう、めざせ！昆虫標本マスター①～入門編～）とさまざまなイベントが予定されていますので、ふるってご参加ください。

館長 高橋 淳之